

ベッドをかえたら症状が良くなった？

# ポジショニングベッド を使用した患者様の 症状改善事例集



プラッツの医療施設用電動ベッド「P300シリーズ」を導入いただいた病院・施設様にお話をうかがいました



医療法人誠愛会グループ  
佐世保記念病院 様



医療法人 和仁会  
東福岡和仁会 様



特定医療法人 檜山会  
介護老人保健施設うぐいすの丘 様



医療法人 智仁会  
佐賀リハビリテーション病院 様



## 医療誠愛会グループ 佐世保記念病院 様

1980年11月に鹿子前病院として開設し、地域住民の療養と社会復帰に向けたリハビリテーションを担う161床を有する病院です。  
看護部の坂元看護部長と横山看護師長にお話をうかがいました。

### 患者様の状況

- ・ 首が後屈している
- ・ 経管栄養法を実施
- ・ 誤嚥性肺炎のリスク高



### ベッド導入後の様子

- ・ ハイバックサポート機能を使用しているうちに、後屈していた首がだんだん下がってきた。
- ・ 食事ができるようになり、経管栄養を外すことができました。
- ・ 口腔ケアがしやすくなり、誤嚥による発熱が減少した。
- ・ 会話が增え、昼夜のメリハリがつき睡眠時間が長くなった。

### 坂元看護部長と横山看護師長のお話

ある患者さんは施設で誤嚥性肺炎を繰り返して、施設からは「看取りに近い」と言われるような状態でこの病院に転院してきました。転院されてきたときは入れ歯があっておらず、口の中が汚い状態で口腔ケアが必要な状態でした。また、首が後屈しており、誤嚥性肺炎の危険性が高い状態にありました。当初はとても衰弱しており経管栄養をせざるを得ない状態で、あごを下げるためにバスタオルを使っていたのですがどうしてもずれてしまい、本人も違和感があるせいか嫌がっていました。

しかしベッドを替えてハイバックサポート機能を使うようになってからは、少しずつあごが下がってきて、ペースト状の食事を試したところ食べるできるようになり、だんだん食事量がアップして経管栄養を外すことができました。

2か月後にはあごがしっかり下がって3食ちゃんと食べられるようにまでなりました。おしゃべりも盛んになって昼夜のメリハリもつくようになり、夜も眠れるようになっていました。その患者さんは近々施設に戻られる予定です。

経管栄養をしているその他の患者さんでも、ハイバックサポート機能を使うようになってからだんだんあごが下がってきて唾液の誤嚥が少なくなり、発熱することが少なくなりました。自然に前を向けるので、誤嚥を防ぐことができていると思います。



## 医療法人 和仁会 東福岡和仁会病院 様

福岡市東部地域の医療と介護を担う、199床を有する療養型病院です。ベッドの導入理由や患者様の改善事例などを坂田看護部長、中井看護師長、言語聴覚士の木村様、松尾事務長にお話をうかがいました。

### 患者様の状況

- ・ 顎の関節が脱臼しやすい
- ・ ゼリー食
- ・ 誤嚥による肺炎・発熱
- ・ 首が後屈している



### ベッド導入後の様子

- ・ ベッドを使用して数日間後には誤嚥による肺炎や発熱がなくなった。
- ・ しっかり食事を摂れるようになった。
- ・ 水分を取る時にむせがなくなって、嚥下機能が改善した。
- ・ 表情がよくなった。

### 坂田看護部長、中井看護師長、言語聴覚士の木村様、松尾事務長のお話

介護病棟では3分の2の患者さんが経管栄養を行っているのですが、「なんとか口から食べていただきたい」という思いを常に抱いて患者さんに接していました。 これまでは患者さんが誤嚥しないよう安全に食事していただくため、枕などで首の角度を何度も何度も試行錯誤して調整していましたが、これといった解決法にはたどり着けていませんでした。

ベッドを見たとき、まず目に留まったのがハイバックサポート機能です。このハイバックサポート機能なら私たちの思いに届いてくれるのでは?という期待感のもと、お二人の患者さんで試させていただきます。

お一人は要介護度5の方で、顎の関節が脱臼しやすく、誤嚥を繰り返しゼリー食で対応するしかありませんでした。ですがハイバックサポート機能を使うようになって、数日間後には誤嚥による肺炎や発熱もなくなり、しっかり食事を摂れるようになりました。これは期待以上の効果でした。もう一人の患者さんでは水分を取る時にむせがなくなって、嚥下機能が改善しました。

ST(言語聴覚士)を交えてこのベッドを検討したのですが、枕などではできなかった頭部前屈時のポジショニングがうまくできるようになり、頸部が後屈した患者さんのむせや誤嚥が改善したり、表情の改善などのメリットを感じることができました。

また、ベッドの移動に関しても、6か所から一括ロックができる大型キャスターの搬送性が良く、業務効率向上が期待できることから購入を希望しました。



## 特定医療法人 檜山会 介護老人保健施設うぐいすの丘 様

中澤病院の併設機関として開設し地域の在宅復帰と機能回復訓練を担う、100床を有する介護老人保健施設です。  
理学療法士の山崎様にお話をうかがいました。

### 利用者様の状況

- ・ 頸部が後屈している
- ・ 側臥位しかできない
- ・ 唾液・痰の誤嚥による発熱
- ・ 食事機能が低下



### ベッド導入後の様子

- ・ 仰臥位のポジショニングが可能になった
- ・ リラックスした姿勢により、頸部の反り返りが改善
- ・ 唾液の誤嚥による発熱の減少
- ・ 車いすの座位姿勢の改善
- ・ 食事がむせずに時間もかからず出来るようになった

### 理学療法士 山崎様のお話

小柄な方で円背が強くて頸部の後屈があり、あごが出て首があがってしまっていて、側臥位しかできていない状況でした。リハ室では少しでもストレッチになるようにと、短い時間でもなんとかして仰臥位を取らせていました。でも私たち(リハビリスタッフ)が関わる時間というのは限られているので、これが夜間でもできたら、1時間でもできたら、という思いがずっとありました。

(紹介にいられたP300を)実際に使ってみると、(フィッティング機能やハイバックサポート機能等)全部がよい具合に調整ができました。少ないクッションの数で、職員も自分たちでポジショニングができるようになって、その方は仰臥位ができるようになりました。本人さんもリラックスして休むことができるようになり、頸部の反り返りが改善されてきています。

側臥位でもまくらだけではなく(ハイバックサポート機能で)頭部を上げることができるので、唾液の流出もさせやすくなり、唾液の誤嚥による発熱も減ってきました。

車いす座位の姿勢もよくなり、食事機能が低下してきていましたが、むせずに時間もかからずできるようになっています。

別の方は、風邪で痰が増え誤嚥性肺炎を起こしてしまって、また痰が増えそれを誤嚥しそうな状態で、臥床時にむせてしていました。

ベッドをかえたところ、ポジショニングで痰の流失を促すことができるようになりました。それにより吸引ブラシで対応することができ、状態が落ち着かれました。

今まではたくさんのクッションを使ったりバスタオルで調整したり、それを写真にとってベッドサイドに置いたりしてすごく苦勞してポジショニングをしてきたところでした。

それが簡単にできるようになり、効率が良くなりましたし、なおかつそんなに技術が無くても上手にできるようになりました。いろんな方に活用ができるオールマイティなベッドだと思います。



## 医療法人 智仁会 佐賀リハビリテーション病院 様

佐賀県最大級の広さのリハビリテーション室と約80名のリハビリ専門職で、地域の医療と在宅復帰を担う、96床の回復期リハビリテーション病棟を有する病院です。  
看護部の小副川副部長と言語聴覚療法課の高原課長にお話をうかがいました。

### 小副川 看護副部長、高原 言語聴覚療法課長のお話

#### —導入のきっかけ

このベッドを初めて見たのは院内の研修会だったのですが、ST(言語聴覚士)としてはヘッドアップ(ハイバックサポート)機能と、食事介助の体勢のセッティングのしやすさが今までのベッドにはなく、画期的だと思いました。

また患者さん目線で良いというのはもちろん、スタッフ目線でも非常に楽で、業務がしやすいベッドでした。スタッフの中ではキャスターのブレーキ(センターロック機構)と、高さ調節、細かいセッティング(フィッティング機構)についての評価が良かったです。

#### —食事介助の際のポジショニングに

食事介助の際は、枕やバスタオルやクッションを使って体勢をセッティングしていくのですが、最後の微調整の際に、先に入れたクッションなどがズレてしていました。

このベッドならそれがスイッチひとつで調整できるので、最後のズレが起きないで済みますし、首だけが上がるのではなく全体で上がるので、左右のバランスも調整しやすいです。

看護師は(上記のような)ポジショニングを言語聴覚士さんから聞いて行うことがあるのですが、今までは(再現が)難しかったのですが、このベッドのおかげで楽になったと思います。

枕など1点であげると患者さんも意識してしまい、嫌がったり、ずらしたりしてしまうのですが、それもなくなりました。

#### —ご使用されている患者様

嚥下障害があり口から食べる練習をしている方や、首が後屈している方にも使用しています。意識障害があり呼吸がしにくい方は、口を開けて気道を広げるために首が後屈してしまうケースがあるのですが、そういう場合のセッティングでも使われています。

昔に比べて身体が大きい患者さんが増えましたが、その際のポジショニングも、曲がる位置をずらす機能(フィッティング機能)を使って、楽にできるようになりました。ポジショニング全般に役立ってます。

また、在宅に戻られる患者さんも多くいらっしゃるのですが、その際に同じ機能を搭載したベッドを使えるというのもいいと思います。